

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.47 修行の意味

たそがれ時、夕日を背に姫がひとりぽつんと縁側に座っている。

「どないしてん。いつもの姫らしゅ〜ないがな。」

「なんや御手洗さんですか。」

「えらい寂しゅ〜しとるがな。」

「寂しいわけではないんですが、ただ、和尚の教えが今一つ理解できないんです。」

「お前、ここに来てどれくらいたったかいな。」

姫の隣に座りながら御手洗透が声をかけた。

「もう、二月になります。」

「二月か。そりゃ〜長いようで、短いな。」

「は？」

「お前、ここに来て、何か新しいことに気が付いたか？」

「う〜ん。正直言うて、よく分かりません。」

「そりゃそうやわな。簡単に分か

られたら、長年修行してきたワテらは何やったんやちゅう事になるわな。あそこで庭履きしている山部さんも大分苦労されたんや。」

「そんなに苦労されたんですか？」

「そう、生活習慣病の意味を理解するまでにな。」

「私はまだまだ、理解できません。御手洗さんは簡単に解脱できたんですか？」

遠くを見つめる御手洗透。

「わしな、髪の毛一本残してどっぶり棺桶につかってしもうたんや。何がなんだかよう分からんうちに身体が鉛のように重くなってな、気がついたら集中治療室で人工呼吸器をつけられとったんや。わしな、こないになってしもうた理由をいろいろ考えたんやけど何や心の中がむずむずして気持ち悪いよって、その答えを求めて健康道場の門を叩いたんや。」

「私にはそんな過去はないからよく分かりません。」

「か〜つ！」

肩をすくめる姫。

「うひゃーびっくりしたー。もー。てっきり和尚の警策が飛んでくるかと思たわ。」

二人の他愛のない時間が過ぎていく。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一